

公益財団法人日産財団 第7回理科教育賞の選定〈講評〉

選考委員長 長谷部伸治

日産財団は、「理科教育助成」対象校に選ばれ、理科教育の創意工夫に富んだ実践研究課題に2年間取り組んだ幼・小・中学校、教育研究会等の中から、理科教育の質の向上に資する優れた研究成果をあげた助成校に「日産財団理科教育賞」を贈呈している。本年度は、2016年度に「理科教育助成」対象校に選ばれ、2年間（2017.1.1～2018.12.31）の取組を終えた神奈川県14校、福岡県7校、栃木県4校、福島県10校、合計35校から提出された中間報告書と最終成果報告書をもとに、選考委員会において第一次書面選考および第二次選考を経て、第7回理科教育賞候補4校を選定した。

最近の傾向としては、パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報通信技術を活用した教育（ICT教育）に関する先進的な取り組みや、プログラミング学習への取り組みに関する成果報告が多く、最終候補に残った4校もICT教育が1つのキーワードであった。これら4校による成果発表会が2019年7月24日、横浜ベイホテル東急で開催され、理科教育の実践を通じて優れた成果をあげた1校を『第7回理科教育賞 大賞』、残りの3校を『第7回理科教育賞』に認定した。

選考委員会が選んだ理科教育賞候補4校を除く助成31校の成果は、ポスターセッションで報告された。ポスターセッションでは、タブレット端末を用いて成果を紹介するなど、成果発表のスキルも向上しており、参加者間で熱心に情報交換が行われた。このポスターセッションにおいて、全助成校教員や贈呈式参加者の投票により、『第7回理科教育賞 ポスターセッション賞』を選定した。

各賞受賞校は以下の通りである。

【第7回理科教育賞 大賞(楯と副賞100万円)1校】

横浜市立三ツ沢小学校:生活科から理科への学年間のつながりを意識した教育実践、学習のゴールを見据えたシステムティックな教育研究デザイン、デジタル気体検知管やパルスオキシメーターなどの電子機器やくじら型ペットボトルを用いた実験などの独創的かつ先端的な教育実績が高く評価された。

【第7回理科教育賞(楯と副賞50万円)3校】

下野市立古山小学校: ICT機器の特徴である、動画の録画機能、複数回再生機能、スロー再生機能、拡大機能などをうまく利用した授業実践、および「書いて考えて伝える」活動の実践とその中での適切なキーワードを与えてまとめさせるという指導実績が評価された。

飯塚市立飯塚東小学校: 知識構成型ジグソー法の中に、ICT機器の有する情報の共有機能をうまく組み込んだ授業実践や、安易にインターネットの検索機能を利用するのではなく、教師がヒントとなる資料を精査して準備し、それをもとに児童に考えさせるというICT機器を利用した授業実践が評価された。

いわき市立小名浜第一小学校: 子どもたちの予想とズレを生み出す理科的な事象をうまく設定した授業実践や、そこでの児童自身で気づかせようとする情報の提供の仕方の工夫、繰り返し見ることができるというICT機器の特徴を生かした授業実践が評価された。

【第7回理科教育賞 ポスターセッション賞(楯と副賞20万円)1校】

川崎市立中学校教育研究会理科部会: 小中高のつながりを意識した学びのストーリーの生成、2単元時間連続の授業、アクティブラーニングを志向したICT利用法などの先進的な授業法開発に関する実績や、生物、化学、物理、地学、環境に関する100項目からなる「授業で使える！おもしろ理科実験」テキストの編集、刊行等の実績が評価された。